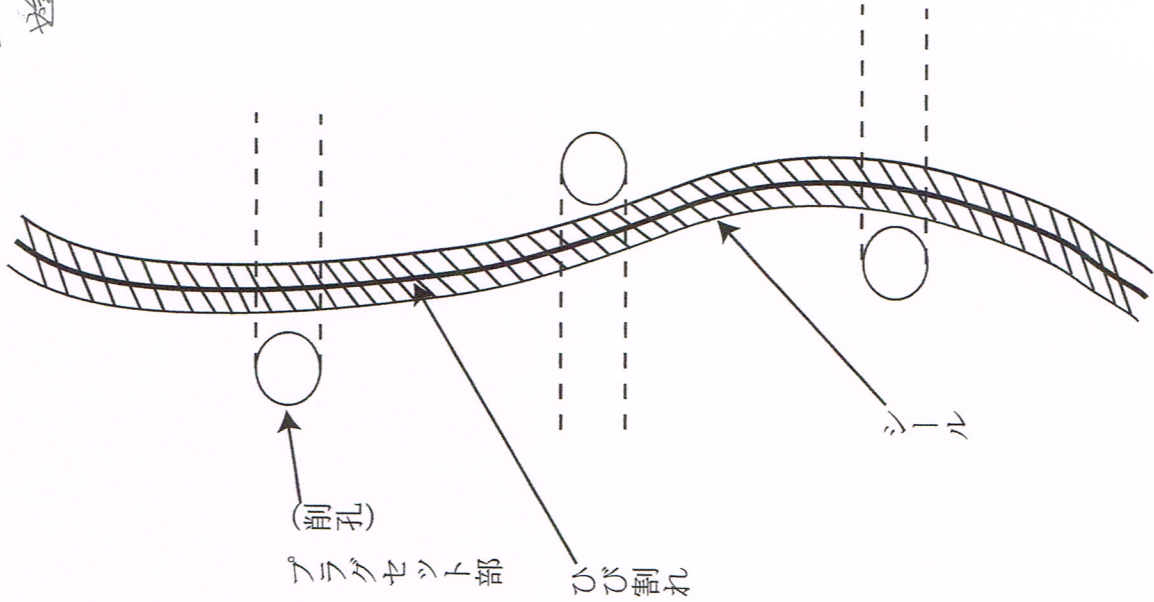
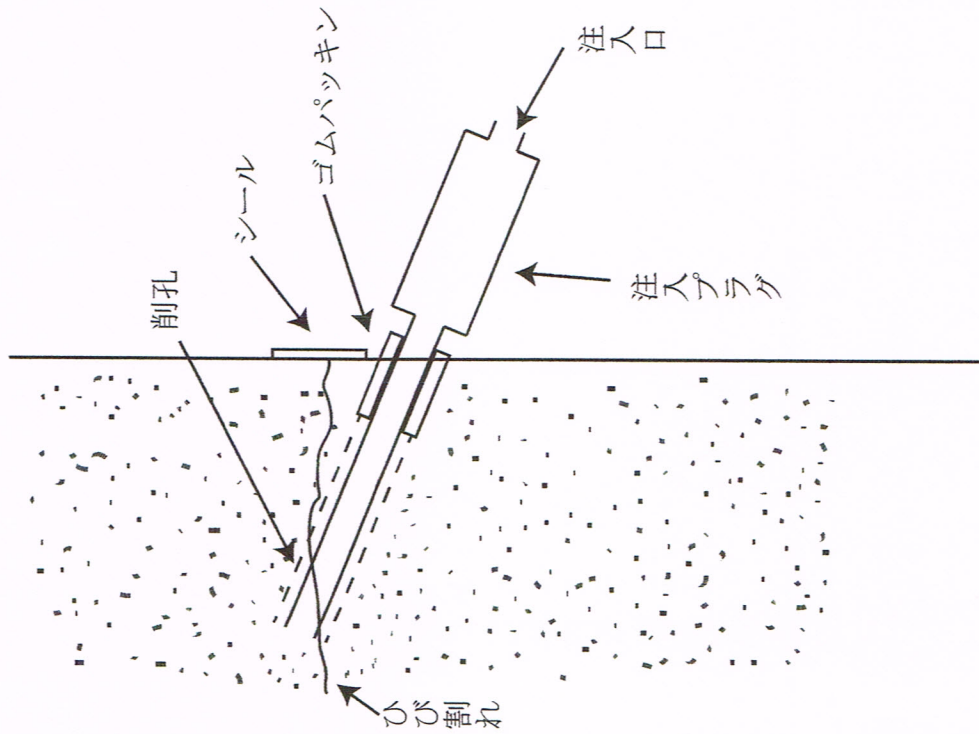


注入工詳細図

ミラックス工法

止孔、
 差離石灰析出部(V.Vカット(ない))



作業手順

1. 析出物はサンダーなどで除去し、汚れ等はシール材の付着に支障が無いように除去
2. 直径 6mm のミストドリルでひび割れをコンクリート内で横断するように削孔
3. ひび割れにシールする
4. プラグを取り付ける
5. 注入工 (次の注入プラグ逆止弁を開放する)
6. 順次 5 の要領で注入
7. 発泡養生
8. プラグ、シール撤去
9. 削孔部モルタル充填
10. 清掃、片付

コンクリート補修
(断面修復、アバタ・スケーリング、表面補修)

対象部位	全てのコンクリート、モルタル (但し、ポリマーセメントモルタル補修部を除く)
何に有効	コンクリート補修で、劣化進行を遅らせるために肝要なのは、既存のコンクリートと補修材の付着にある。 付着性を高める無機混和材で、断面修復、ひび割れ充填、初期欠陥の補修などに使用して、付着性が高く躯体と一体化し剥れない。 混和材の性能 モルタルペースト付着強度 4.26 n 圧縮強度試験後のテストピース強度回復 90%以上
現状	ポリマーセメントモルタルによる補修が一般的。 補修界面にプライマー（樹脂材）を塗布することで遮水層ができる。 遮水層には、温度変化によって、コンクリート中にある空隙（空気、水）の体積変化による繰返しの圧力が作用する。
技術	施工後、プライマーに透水すると加水分解によりポリマーモルタルが剥離する。 1. 有機プライマーを用いず、遮水層を作らない、透気・透湿性も確保される。 2. 従来の左官工法・吹付工法で、界面に無機のバインダーを用いる。 3. 濡れている状態で施工できる。
効果	1. 躯体と同じ無機成分のモルタルを用いた施工で、高い付着性が得られる。 2. 遮水層を作らず透気性、透湿性が確保されるため、ブリスタリング、剥離損傷の懸念が小さい。 3. 濡れている状態で施工できるため、施工性がよい。
施工方法	1. 漏水、遊離石灰、鉄筋防錆処理等は事前に処理する。 2. 補修面を散水湿潤する。 3. 補修面に無機バインダーを散布する。 4. 無機系混和剤を用いた補修をする。(左官工法・吹付工法) *目地工によりフェザーエッジとしない。 *塗厚により細骨材の粒径を選定する。 *一回当たりの塗厚は3 cm程度を目安とする。
製品	無機系混和材（無機質中性カルシウム系混和剤）

トワニ（モルタル混和剤）断面修復工法

（ T D R 工 法 = 補修界面に遮水層を必要としないで一体化を確保する工法）

1. 前処理 漏水、ひび割れ、白華、鉄筋錆等は事前に処理する。
2. 劣化部撤去 カッターを入れて劣化厚さを確認してハツリ取る。
 （ウォータージェットを使用して健全部が残ったときはそのまま残す）
3. 断面修復 イ 高圧洗浄機等で水を吹き付け、研り時の殻・埃等を除去し、
 既設コンクリートに十分に水を含ませる。
 ロ バインダー塗布（トワニ：セメント＝1：1）
 ハ トワニを水の代わりに用いたモルタルで、吹付工法、左官工
 法等の方法で断面を修復する。
 ニ 表面を金鏝で仕上げる。
4. 界面防水 水和反応終了後、界面を塗膜材（透気・透湿性を有する）または吸
 水防止材で防水する。

* 断面修復部の耐久性を高める表面保護

A. 凍害、塩害が主な劣化要因の場合

1. 常時水に接する部位

 ケイ酸塩系改質材を塗布する。

2. 常時水に接しない部分

 シラン系表面含浸材を塗布する。

B. 塩害、中性化が主な劣化要因の場合

 透気・透湿性のある無機無溶剤の耐候性のあるシリコーン系塗膜塗料を塗
 布する。

2011. 8. 1.